

洋14-76 (ショートコメント)

「アナと雪の女王」 ★★★

2014 (平成26) 年6月14日鑑賞<TOHOシネマズ西宮OS>

監督：クリス・バック、ジェニファー・リー
アナ (アレンデール王国の王女) / クリスティン・ベル
エルサ (アレンデール王国の女王、アナの姉) / イディナ・メンゼル
クリストフ (山男の青年) / ジョナサン・グロフ
スヴェン (クリストフの相棒のトナカイ)
オラフ (雪だるま) / ジョシュ・ギャッド
ハンス (サザンアイルズ王国の王子、13人兄弟の末っ子) / サンティノ・フォンタナ
ウェーゼルトン公爵 (貿易相手であるウェーゼルトン国の公爵) / アラン・テュディック
マシュマロウ (エルサの魔法で作られた氷の怪物、氷の城の門番)
シトロン (ハンスの愛馬)
パビー (石のような姿をした不思議な生き物、トロールの長) / キーラン・ハインズ
バルダ (トロールの一人) / マイア・ウィルソン
オーケン (サウナ付き山小屋の主人) / クリス・ウィリアムズ
トロール (石のような姿をした不思議な生き物)
アグナル (アレンデール国王、アナとエルサの父) / モーリス・ラマルシェ
ゲルダ (アナとエルサの召使い) / エディ・マッククラグ
カイ (アナとエルサの召使い) / スティーブン・アンダーソン
アレンデール王妃 (アナとエルサの母) / ジェニファー・リー
幼いアナ / リビー・スタベンラッチ (台詞)、ケイティ・ロペス (歌)
子ども時代のアナ / アガサ・リー・モン
幼いエルサ / エヴァ・ベラ
10代のエルサ / スペンサー・レイシー・ガーナス
2013年・アメリカ映画・102分
配給 / ウォルト・ディズニー・スタジオ

◆ディズニーのアニメはさすがにもう卒業。そう思って本作の鑑賞はパスしていたが、主題曲『レット・イット・ゴー』の大ヒットとともに映画也大ヒット。4月13日にTOHOシネマズ西宮OSで『白ゆき姫殺人事件』(14年)と『ホビット 竜に奪われた王国』(13年)を観た時は、本作は満席で入れないほどの人気になっていた。日本での興行収入は、2014年6月2日現在で既に212億円を突破。観客動員数も既に1601万人を超え、『ハリー Potter と賢者の石』(01年)を上回り、日本歴代3位、世界歴代5位という記録的大ヒットになっている。

そんな情報を聞くと、やはり観ておかなければと思い、土曜日の夕方映画館で観たが、私が観たときの入りは約20%だったから、さすがの人気ももう終わり・・・。

◆予告編を観た時、私は本作は「雪の女王」の物語だと思っていた。しかし、映画がはじまるとすぐに、本作は若くしてアレンデール王国の女王に就任する姉のエルサと妹のアナ姉妹の物語であることがわかる。したがって、本作のテーマは「姉妹の絆」だが、ストーリーを動かすキーワードはディズニー映画らしく「魔法」。

姉のエルサは子供の頃から、触れたものを凍らせたり、雪や氷を作る魔法の力を持っていたが、成長するにつれてその力が増大してきたため、いろいろな問題が生じることに。大問題が起きたのは、エルサが8歳の時。エルサの魔法で2人が楽しく遊んでいた時、ちょっとしたミスでアナは意識不明の重体に陥ることに。そのため、両親は以降エルサの魔法を封じるための努力を続けるとともに、やむなくエルサを城の中に閉じこめ、アナと接触させないことにしたから、以降2人はさびしい少女時代を送ることになった。

さらに追い打ちをかけるように、両親が海難事故によって死亡。成人したエルサは今、アレンデール王国の女王に就任するべく城を開き、姉妹の再会を果たし、国民が祝福する中、戴冠式に臨もうとしていたが・・・。

◆そんな導入部からはじまる物語が、第86回アカデミー賞で長編アニメ映画賞と歌曲賞を受賞しただけあって、美しい音楽を散りばめながら、ミュージカルスタイルで展開していくから、なるほど、こりゃ楽しい。もっとも、本作は若い姉妹が主人公だから、男性陣の影が薄いのが目立つ。最初に登場する男性はサザンアイルズ王国の13人兄弟の末っ子のハンス。アナとハンスは互いに一目ぼれし、直ちに姉のエルサに結婚の報告に行くが、それをエルサが承認しなかったのは当然。しかし、この2人にはロミオとジュリエットばりの悲恋物語が待ち受けているのかと思うと、実は、実は・・・。

もう一人の男性は戴冠式から逃げ出し、一人『レット・イット・ゴー』を歌いながら力強く生きる決心をしたエルサを、アナが捜しに行く途中に出会った山男の青年クリストフ。本作中盤以降は、トナカイのスヴェンと共に行動しているクリストフと、陽気な雪だるまのオラフを従えた、アナの「姉捜しの旅」がストーリーの軸になっていく。

この時点ではアナはなおハンスとの純恋を信じていたため、クリストフは一步後ろに引いているが、後半から、あっと驚くハンスの「本性」が明らかになると、さて男女の愛のストーリーの展開は・・・？

◆本作は「姉妹の絆」がテーマだが、雪のために止まってしまいそうになったアナの心臓を温め、再び動かすことができるのは、「真実の愛」だけ。そんな状況設定の中クライマックスに向けては「真実の愛」とは何か、が実質的なテーマになっていく。しかし、そこには渡辺淳一ばりの「性愛」は登場しないし、ロミオとジュリエットばりの男女の悲恋も登場せず、もっぱら「姉妹の絆」が強調されるので、それに注目。

クライマックスに向けてそんな風に展開していく本作については、ありのままの自分を肯定する歌『レット・イット・ゴー』を同性愛のカミングアウトの歌と解釈する向きもあるそうだから、ビックリ。さらに、ハンスやクリストフという主要男性キャラクターがあまりにぞんざいに描写されているため、その「男性差別」的ジェンダー観に対して違和感を表明する人まであるそうだ。たしかに、本作のテーマである「姉妹の絆」はちょっと風変わりな面があると私も思う。しかし、子供を中心に大ヒットしている本作について、そこまで「深読み」する必要はない、と私は思うのだが・・・。